

言って知らなかったこともたくさんあった。) 邦訳もでた Eldredge and Cracraft (1980) や Wiley (1981) などのすでに標準書ともなったものに本書を加え、さらに PAUP (Swofford, 1991) 等のコンピュータプログラムのマニュアルを熟読し、ソフトを使いこなせるようになれば、少なくとも国内において恐いものはない。これから魚類の分類学・進化学(とくに進化生態学)を志す人には必携の書である。

引用文献

Brooks, D. R. and D. A. McLennan. 1991. Phylogeny, ecology, and behavior: a research program in comparative biology. Univ. Chicago Press, Chicago, xii + 434 pp.

Brooks, D. R. and E. O. Wiley. 1986. Evolution as entropy: toward a unified theory of biology. Univ. Chicago Press, Chicago, xiv + 335 pp.

Eldredge, N. and J. Cracraft. 1980. Phylogenetic patterns and the evolutionary process: method and theory in comparative biology. Columbia Univ. Press, New York, vii + 349 pp. [邦訳: 系統発生パターンと進化プロセス. 1989. 篠原明彦・駒井古実・吉安 祐・橋本里志・金沢 至共訳, 蒼樹書房, 東京, 379 pp.]

Felsenstein, J. 1985. Confidence limits on phylogenies: An approach using bootstrap. Evolution, 39: 783-791.

Funk, V. A. and D. R. Brooks. 1990. Phylogenetic systematics as the basis of comparative biology. Smithsonian Inst., Washington D.C., 45 pp.

Hennig, W. 1966. Phylogenetic systematics. Univ. Illinois Press, Urbana, xv + 263 pp.

Maddison, W. P., M. J. Donoghue and D. R. Maddison. 1984. Outgroup analysis and parsimony. Syst. Zool., 33:

83-103.

宮 正樹. 1992. (図書紹介) 進化学において分類学が果たすべき役割. SHINKA, 1(4): 75-83.

Nelson, G. J. and N. I. Platnick. 1981. Systematics and biogeography: cladistics and vicariance. Columbia Univ. Press, New York, xi + 567 pp.

Swofford, D. L. 1991. PAUP: Phylogenetic Analysis Using Parsimony, Version 3.0s. Computer program distributed by the Illinois Natural History Survey, Champaign, Illinois.

Watrout, L. E. and Q. D. Wheeler. 1981. The out-group comparison method of character analysis. Syst. Zool., 30: 1-11.

Wiley, E. O. 1981. Phylogenetics: the theory and practice of phylogenetic systematics. John Wiley & Sons, New York, xvi + 439 pp. [邦訳: 系統分類学: 分岐分類の理論と実際. 1991. 宮 正樹・西田周平・沖山宗雄共訳, 文一総合出版, 東京, xxii + 529 pp.]

(宮 正樹 Masaki Miya)

追記:

なお、著者の一人 (E. O. Wiley) から以下の正誤表が送られてきたので本書を既にお持ちの方は該当箇所を訂正されたい。

- p. 74 の r の式は  $r = g - s/g - m$  が正しい
- p.107 の図 6.17 のキャプションの書き出しは "A phylogeny of hypothetical species of the genus *Mus*,..." が正しい
- それ以外にも、p. 62 の下から 2 行目 "...MPR set of Y" の Y は誤りで、明らかに Z とすべきである。

会 員 通 信・News and comments

第 8 回魚類分類談話会

On the 8th Seminar for Systematic Ichthyology in Maizuru, November 29-December 1, 1991

京都大学農学部附属水産実験所(京都府舞鶴市長浜)において開催された第 8 回魚類分類談話会について簡単に報告する。

11 月 29 日(金): 午前中からやって来て、標本館で標本を調べる人もいたが、ほとんどの参加者は午後から夕刻にかけて集った。

談話しながら夕食を終えた後、めいめいか持参したスライドを映写するスライドナイトを楽しんだ。2-3 回前から始まったのだが、まだ参加者の 3 割ほどしかスライド持参者がいない。ほぼ全員が 1 枚でも持参するようになると、このスライドナイトもこの会に定着して、もっと

- 楽しく有意義になるのではないかとと思われる。
- 11 月 30 日(土): 朝食後、水産生物標本館の見学を行った。それが済んで、午前 10 時半から、約 30 名の参加者を得て、下記の話題提供があり、活発な論議があった。
- 話題 (10:30-18:00)
1. マグロとカジキの相違について  
中村 泉(京大水実)
  2. タウエガジ科魚類に見られる地理的形態変異  
三木 徹(姫路市立水族館)
  3. 中国新疆维吾尔自治区阿勒泰地区で採集された魚類  
木村清志(三重水実)・森 拓也・片岡照男(鳥羽水族館)・細谷和海(養殖研)・伍漢霖(上海水大)・鈴木 清(鳥羽水族館)
  4. アメリカの水族館紹介

谷 修一 (大阪府西成高校)

(中村 泉 Izumi Nakamura・北川吉隆 Yoshitaka Kitagawa)

5. アジ科魚類の鼻孔について

北川吉隆 (京大農)

6. 兵庫県氷上地方の淡水魚類相

山科ゆみ子 (兵庫陸水生生物研会)・細谷和海 (養殖研)

7. サバ型魚類の鰓耙と鰓耙数

中村 泉 (京大水実)

三重大学の木村先生と西成高校の谷先生は珍しいスライドをふんだんに用いて、さながら我々をそれらの旅に同道させて下さったかのようであった。

話題提供終了後、午後7時から懇親会が開かれ、久しぶりに顔を合わせた魚屋達の話は秋の夜長を十分に使っても、尽きることがないようだった。

12月1日(日): 午前9時から、ほとんど全ての参加者が京都府漁連西舞鶴魚市場に車を連れて見学に行った。次回での再会を約しつつ午前11時頃に現地散会した。

千葉県立中央博物館の住所表示と電話番号  
変更のお知らせ

千葉市の政令指定都市移行にともない、千葉県立中央博物館の住所表示が1992年4月1日から、また電話番号とFAX番号が同年4月29日から下記のように変更されましたのでお知らせいたします。(下線は変更箇所)

記

新住所表示 〒260 千葉市中央区青葉町 955-2

新電話番号 (043) 265-3111 } 市街局番が4桁から

新FAX番号 (043) 266-2481 } 3桁になりました

(宮 正樹 Masaki Miya)

会 記・Proceedings

日本複写権センター発足と複写権委託表示について

ご存じのとおり、著作物を複写するには、著作権法によって認められた特別の場合以外は、著作権者の許可が必要です。しかし、その都度許可をえて複写することは、利用者にも著作権者にも不便です。そこで先進18カ国では、複写権を集中的に処理するセンターが設置され、そこが著作者から複写権の委託を受け、利用者とは利用契約を結んで、一定の料金をとり、複写を許可することによって、著作権者、利用者双方の便宜をはかっています。

日本でも、このような目的をもって「日本複写権センター」が1991年9月30日に発足し、学協会著作権協議会が複写権の集中委託を行ってきました。

日本魚類学会では、先に会誌の複写権を前記協議会に委託しましたので、委託済であることを利用者が容易に識別できるように、本誌に「複写をされる方に」という表示をすることにしました。

なお、学協会著作権協議会では、アメリカ合衆国の複写権センターであるCCC (Copyright Clearance Center)と1991年9月1日付で相互協定を結びました。本会は今前記協議会を通じてCCCにも複写権を委託しましたので、「複写をされる方に」の英文表示も併せ掲示します。

なお、日本複写権センターなどの詳細を知りたい方は、下記にご連絡下さい。

学協会著作権協議会内日本複写権センター支部

〒171 東京都港区赤坂 9-6-42-704

電話 03-3475-4621・5618

FAX 03-3403-1738

1991年度日本魚類学会シンポジウム  
サケ属魚類に関する最新事情

日時: 1991年10月6日

場所: 北里大学水産学部 第一校舎4階

コンピーナー: 山崎文雄 (北大・水)・井田 齊 (北里大・水)

開会の挨拶

1. アラスカにおける地産、移殖、及び交配シロザケの  
回帰性

William W. Smoker アラスカ フェアバンクス  
大 水産・海洋学部

2. アラスカ産カラフトマスの適応的集団構造

Anthony J. Gharrett アラスカ フェアバンクス  
大 水産・海洋学部

3. 北海道産サクラマスの mtDNA の変異性

小林敬典・沼知健一 東大・海洋研

昼食

4. 淡水期における放流サケマス幼稚魚の分布・移動

真山 紘・帰山雅秀 さけ・ますふ化場

5. サケ科魚類幼稚魚の降河回遊の引金機構

岩田宗彦 養殖研・日光支所

休憩